

		チェック項目	回答	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○	一日の利用定員数（10名）に対して、十分な活動スペースが確保されている。そのため、お子様が伸び伸びと活動している。部屋数も豊富なため、個別学習をする際には、お子様の特性に配慮して部屋を割り振ることができている。
	2	職員の配置数は適切であるか	○	法定人員を満たすだけでなく、個別学習を充実させる職員数を配置している。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切か	○	お子様が使う各部屋は、色（赤、青など）と用途（静かに遊ぶ部屋、体を動かす部屋など）で構造化されている。切り替えが難しいお子様も、落ち着いて過ごすことができている。本校は、福祉事業を行う前提で建設された施設であるため、バリアフリー仕様となっている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○	職員がお子様と関わる時間をより確保することや校舎を適切に運営することを目的に、全職員で業務改善を進めている。特に、お子様に関する情報共有に力を入れており、全職員で現状の把握や目標の設定、対応などを話し合う時間を毎日確保している。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○	保護者様にご協力を頂き、事業所評価に回答を頂いた。集計結果を全職員で共有した後、業務改善に取り組んでいる。大きな改善点がある場合は、保護者様への説明を行う予定です。また、年1回の事業所評価だけではなく、日々の送迎時などで要望を聞き取り、可能な限り対応を模索しながら、よりよい校舎運営につなげていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○	ホームページで公開しています。前年度の評価シートも閲覧できる仕様となっている。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	×	数年に1度、行政による実地指導が行われ、適切に運営されているかが評価される。今年度は、そうした第三者による外部評価は行われなかった。サービスの質的向上を目指して、日々職員で適切な運営を心がけている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○	定期的に内部研修を実施している。適切な校舎運営のために、事業継続計画（1月）、身体拘束（2月、9月）、感染症（5月）、防災訓練・消火訓練・避難訓練（7月）、身体拘束（9月）、防災訓練・通報訓練・避難訓練（11月）をしている。お子様の理解につながる専門性の向上に関しては、適宜、外部研修を受け、勉強会を開催している。

	チェック項目	回答	工夫している点、課題や改善すべき点など
適切な支援の提供	9	○	新規のお子様に関しては、見学や体験の時にアセスメントを行い、お子様と保護者様のニーズと照らし合わせて、個別支援計画を作成している。既存のお子様に関しては、日々の活動で見られる成長を職員で分析した後、アセスメントシートにまとめ、個別支援計画を作成している。
	10	×	標準化されたアセスメントツールは使用していない。一方で、全職員が日々気づいた内容をアセスメントシートにまとめ、定期的に共有して、その内容を療育活動に結びつけている。職員の多様性を確保しているため、それぞれの視点でアセスメントを行い、集約して話し合うことで、一人ひとりのお子様の実態を多面的に把握している。
	11	○	アセスメントの内容や保護者様から頂いた情報を全職員で共有して、療育内容を計画している。毎日のルーティングとして行う学習課題を作成することで、担当する先生が変わっても安心して継続した学習できる仕組みもある。
	12	○	お子様や保護者様の反応を見ながら、最適な学習を提供できるように、アセスメントシートやサービス提供記録を見ながら、意図のない固定化が無いように心がけている。
	13	○	時期に応じて、お子様が来所する時間が早かったり、遅かったりするため、それに合わせて、スケジュールを変更して、活動を計画している。時間のある時は、より充実した体験ができるように工夫している。
	14	○	基本的に個別で学習を進めている。一方で、SST（ソーシャルスキルトレーニング）などコミュニケーションを養う学習では、教育効果を高めるために、2~3人の小集団で学習を行うこともある。子どもの状況に応じて、様々な形態で学習を行っている。
	15	○	お子様が来所する前に職員の打ち合わせを行っている。学習内容だけではなく、自由時間やその日の学校の様子など、お子様の様々な情報を共有して、理解を深めている。
	16	○	
	17	○	利用した日の支援報告として、お子様の様子やどんな学習をしたかなどをサービス提供記録として、毎回作成して専用サイトで閲覧できるようにしている。作成した記録は、他の職員も閲覧でき、その子を理解するために役立っている。
	18	○	個別支援計画の更新は、お子様の実態が大きく変わった時や成長に伴い現状の個別支援計画の目標が達成された時期に行っている。日々の観察で蓄えられたアセスメントの情報や現状を考慮して、更新を判断している。そのため、更新期日（6ヶ月）を待たず更新することもある。
19	○	ガイドラインに示された4つの基本活動（自立支援と日常生活の充実のための活動、創作活動、地域交流の機会の提供、余暇の提供）を網羅するように活動が計画されている。ただし、お子様が利用する曜日により、提供できていない活動もある。	

	チェック項目	回答	工夫している点、課題や改善すべき点など
関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○ 今後、サービス担当者会議へ参加する機会があれば、最もふさわしい者を代表で参加させて、お子様の理解を深めていく。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	○ 学校との業務上の情報共有はさる事ながら、お子様の情報共有にも力を入れている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	× 該当者なし。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	× 今年度は、必要性を感じるお子様がいなかったため、就学前に利用していた機関との連携はなかった。一方で、現状の発達への理解を深めるために、所属する学校との情報共有に努めている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	× 該当者なし。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○ 外部研修には、積極的に参加している。子どもの対応等で不明な点がある場合は、関係機関に助言を仰いでいます。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	× 現在、保育所等との交流は行っていない。感染症が落ち着き次第、近隣の保育園を中心に交流していきたい。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか	× 来年度は参加したい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○ サービス提供時にHUGというシステムで、その日の活動報告を共有するとともに、送迎時に保護者様とお話をして、お子様の様子などを共有するようにしている。事業所内相談なども必要に応じて積極的に取り組んでいる。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	× 大規模な家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）は行っていない。送迎時や面談等で子育ての悩みやお子様に関する対応などをお話して、共通認識で子どもを理解できるように留意している。	

		チェック項目	回答	工夫している点、課題や改善すべき点など
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○	契約時に、通所するのに必要な情報や利用負担額などについて説明をしている。情報量が多く、一度では理解が難しい内容に関しては、繰り返しお伝えするようにして、保護者様の負担軽減に気をつけている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○	お子様の子育てに関する相談は、支援をする上で必要な情報と捉えており、可能な範囲で助言と支援を行っている。必要に応じて、事業所内相談などの時間を作るようにしている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○	今年度は、保護者会（9月）と参観（2月）を実施した。今後も子育ての相談や保護者同士の交流の場を提供しながら関係作りを支援していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○	規定に基づく第三者委員を組織して、相談や苦情、要望など、お子様や保護者様からお話を頂いた時は、可能な範囲で対応している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○	HUGシステムやFacebookを用いて、随時活動内容を発信している。その際、顔も含めて個人が特定しにくいように配慮している。
	35	個人情報に十分注意しているか	○	お子様の情報に関して、関係機関と連携する場合は、事前に同意を得るようにしている。また、活動報告のために撮影した写真を個人の携帯に保存しないことを徹底している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○	来所時や送迎時に情報共有を行うことに加え、HUGというシステムを使って、視覚的に情報伝達を行うようにしている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○	施設のオープンを記念して、昨年の4月に地域の方々を招待したオープンイベントを実施した。多くの方に足を運んでもらい大盛況だった。今後も地域と交流できる行事を企画していく。

		チェック項目	回答	工夫している点、課題や改善すべき点など
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○	緊急時の対応については、HUGシステムで保護者様に共有するとともに、定期的に訓練を実施している。犯対の対策として、玄関の施錠の徹底とつかえ棒を挟んでいる。感染症への対応は、契約時に保護者様に説明している。季節的なノロウイルス感染症などに関しても、職員研修を実施して、お子様の安全を守ることができるよう努めている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○	年2回、職員とお子様を対象に避難訓練を実施した。今年度は、お子様の防災意識を高めることを目的に、消防署への社会科見学に行きました。お子様が有事の際に、適切に行動できるように、来年度は、避難訓練を実施する頻度や曜日などを工夫する予定。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○	職員を対象に虐待防止研修を年2回実施した。日々の関わりの中で、不適切な言動が行われないように、研修等で人権意識を高め、職員同士が日々を点検し合いながら、虐待防止に努めている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うか、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○	職員を対象に身体拘束に関する研修を年2回実施した。社内方針では、やむを得ない場合（他のお子様の安全に関わる場合など）を除き、身体拘束を行わないことが定められている。今年度は全利用者に対して身体拘束は1件も行われなかった。法改正に併せて、個別支援計画の更新時期に、再度、保護者様への説明と了承を得ていく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○	利用者のアレルギー管理表を職員室に掲示して意識付けを行っている。アレルギーをお持ちのお子様に対しては、おやつ持参や離れて食べるなど個別に配慮している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○	ヒヤリハットのデータベースを作成して、定期的に職員で共有することで、問題や事故等の予防に努めている。職員の危機意識の低下を防ぎ、お子様が安全に過ごせるように、各職員が月1回の頻度でデータベースに記入する仕組みを設けている。